

# Book Fan Newsletter

発行:平成24年 11月10日

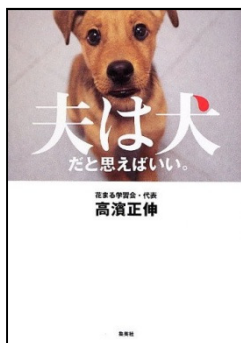
編集:塩尻市立図書館

0263-53-3365

(Book Fan Newsletter 5号)

書店員と図書館員がおすすめの本を紹介する「Book Fan Newsletter」の5号です。

暮らしのスタイルにあわせた、本との付き合い方の一つとして書店と図書館をご利用ください。



『夫は犬だと思えばいい』 高濱正伸（著） 集英社

一見、夫のことをバカにしているようなタイトルですが、超人気塾カリスマ先生が教える、最強の子育てバイブル！

子育てをするには、夫婦間の仲が非常に大切だということ！ 男と女は違う生き物であると認識して、相手を思うことの大切さを言っています。

夫を人間だと思わないのです。犬だから仕方ありません。犬だと思えばいいのです。

興文堂平田店 降籬さん

『幸せの条件』 誉田哲也（著） 中央公論新社

燃料用に米を作る農家を探して来い！ 突然の社長命令に、梢恵は長野の農村へ。ところが行く先々で「米は食うために作るもんだ」と門前払い。農業法人「あぐもぐ」の社長・安岡に「まずは体で農業を知れ」と一括され、人生が動き出す。東京砂漠で暮らす梢恵を、温かく迎えてくれた人々。自然の営みを知り、農業と労働の喜びに目覚めていく。文中で語られる土着の人生訓が素晴らしい。

中島書店 清水さん



『サンタクロースっているんでしょうか？』

フランシス=P=チャーチ(文) 東逸子(絵) 偕成社

『サンタクロースのしろいねこ』

スー・ステイトン(文) アン・モーティマー(絵) 徳間書店

今回はクリスマスプレゼントにお薦めの2冊の絵本を紹介します。

1冊目『サンタクロースっているんでしょうか？』は、約100年前、アメリカの新聞に実際に掲載された社説を絵本にしたものです。8歳の少女の質問に対し、目に見えないもの、心の大切さを語りかけた世界中の人々に愛読されている本です。

2冊目の『サンタクロースのしろいねこ』は、宝石のような美しい瞳をした雪のように白い猫、スノウの物語。ため息の出るような美しい絵とあたたかい文章で綴られた色鮮やかな絵本です。2冊ともお子様はもちろん大人の方へのプレゼントにもお薦めします。

今年はプレゼントに素敵な絵本もプラスして贈られてみてはいかがでしょうか。

丸文書店 金子さん

(書店名五十音順)



図書館職員が選んだ  
今月のおすすり本

『敬語のおさらい』

三ツ野薫（著） 自由国民社



学生の時に勉強したはずの敬語。気になる言い回しを耳にすることや、気づかずに、実は誤った使い方をしていることがあるかもしれません。この本は、敬語の基本から、日常生活にありそうな具体的な例をもとにした応用までわかりやすく書かれており、気軽に学びなおしができるようになっています。  
言語分野担当

『短歌で読む昭和感情史 日本人は戦争をどう生きたのか』

菅野匡夫（著） 平凡社

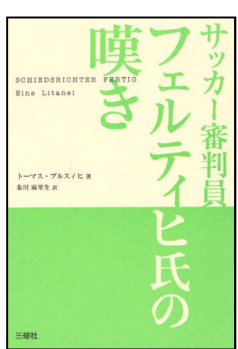


太平洋戦争開戦から終戦までの間に詠まれた短歌を、著者が史実に基づきながら丁寧に解説しています。短歌から当時の人々の切なさ、悲しみ、喜び、怒りなどの感情が浮き彫りとなり、より深く当時のことを知ることができます。戦争を体験していない世代にもお勧めです。

日本文学担当

『サッカー審判員 フェルティヒ氏の嘆き』

トーマス・ブルスイヒ（著） 三修社



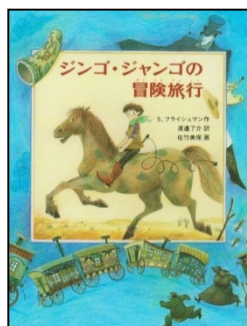
フェルティヒ氏は一人つぶやく。サッカー審判員は試合の全ての権限を委ねられている。それ故、選手や観客は自分に都合の良い判定を望む。自分の意に沿わない時は罵る。大変な仕事だ。

この小説ではサッカー審判員の目を通し、社会におけるさまざまな矛盾などを描いています。

外国文学担当

『ジンゴ・ジャンゴの冒険旅行』

S.フライシュマン（著） あかね書房



主人公は孤児の少年ジンゴ。彼は煙突掃除の最中、偶然宝の地図が彫られたクジラの歯を見つけた。そんな折、ジンゴの親を名乗る紳士が現れる。強欲な孤児院の院長からジンゴを買い取った紳士だが、その名前もどうやら偽名らしい。あやしい紳士とジンゴの旅が始まった！

児童文学担当